

伊丹市文化財ボランティアの会 火曜会通信

第64号

発行日：平成27年2月1日

発行：伊丹市文化財ボランティアの会

発行所：伊丹市千僧1丁目1番地

伊丹市教育委員会事務局内

平成27年新年を迎えて

会長 池田利男

本年は未(ひつじ)年で、優しく和やかな年になって欲しいと望みます。

昨年は、NHKの大河ドラマ「軍師 官兵衛」により、伊丹・有岡城が取り上げられ、大いに話題になりました。ガイド活動も申込み団体の数は前年比の3倍、人数では5倍を超えました。一年が経過してもまだ、有岡城・猪名野神社の見学申込みは続いています。有岡城の官兵衛が幽閉された牢屋の場所の説明を聞きたいとの要望は絶えません。ある団体によると、“官兵衛”は終わったが、今後は「城めぐり」が主流となり、伊丹も有岡城があるので観光地化するだろうとのことでした。

われわれも心して「有岡城と清酒発祥の地・伊丹」をガイドしましょう。

会員皆様のご尽力をお願いします。

「歴史は作られる」

市教育委員会事務局 中畔 明日香

新年明けましておめでとうございます。皆様方とまたご一緒できることを幸せに思います。今年もどうぞよろしくお願ひ致します。

さて今年は、阪神・淡路大震災から20年目の節目の年です。20年前の1月17日、

私は大学4回生の卒業単位取得がかかつた試験の最中で、片道2時間強かかる大学へ登校するため起床する直前に、地震は起きました。駅は倒壊し、電車は動かない中、大学に電話をすると「阪急京都線は動いており登校できるので、試験は予定どおり実施します。」と、阪神間の状況を知らないままのあきれた回答で、憤慨したのを忘れもしません！

それと伊丹市は平成27年11月10日に「市制施行75年」を迎えます。なぜ75年前の昭和15年11月10日に「伊丹市」となったのか、今後折に触れ話していきたいと思います。

文化財ボランティア養成講座始まる

第20回文化財ボランティア養成講座が1月27日(火)始まりました。2月24日(火)までの5回の講座(詳細は10面今後の予定参照)があります。そのあと2回の準備会を経て、3月21日(土祝)市民参加の史跡めぐりでガイドを実践します。



平成8年に本講座が始って今年は20回目となる節目を迎えます。第1回養成講座を受講した6名の方が第1期生として、現在も活躍中です。
(松田 記)

伊丹市文化財ボランティアの会では、旧岡田家・石橋家や郷町内・旧西国街道など、市内外から訪問される人たちに文化財のガイドを行っています。市内の史跡・文化財のガイドについてのお問い合わせは、伊丹市社会教育課までお願いします。
(☎ : 072-784-8090)

新年会で今年も始動

1月20日(火)、定例会のあとは恒例の新年会です。皆さんとておきの芸を披露して愉快なひと時を過ごしました。



昨年入会者のひとつこと



寸劇「ペニスの商人」



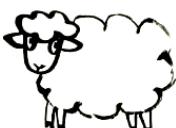
“知らざあ言って聞かせやしょう”

年男・年女

会員4名の抱負
年男バンザイ!!

とは言うものの、6周目の72歳ともなれば、嬉しくもあり、嬉しくもなし。喜びは段々と薄れ、淋しさ・侘しさだけが増えていくように思えます。昨年は体力維持のためウォーキングに取り組んだものの、11月に旧岡田家の急階段で膝を痛め頓挫していますが、せめて趣味のゴルフだけはと膝を庇いながら頑張っています。そのうち出来なくなるのはとは思わず、これからも続けられる様に、健康維持のため自己管理に気を付けたいと考えています。

文化財ボランティアの会も入会以来、早いもので10年目を迎えます。余り役立つ様



細川勝海

な事はしていないので、そろそろ潮時ではあるのですが、優柔不断でだらだら坂を登っております。まるで蹴躓いて転げ落ちるのを待っているかの様です。“ダメよ～ダメダメ！”もっと明るく笑って過ごせるようにしたいものですね ♪

“未だ”と“もう” 石飛淳夫

戦時中、大阪の此花で生まれました。母親は空襲の度に私を抱いて淀川に入水して熱さを凌いでいたようです。このような私も癸未（みずのとひつじ）を迎えることになりました。

これから独り言…「もう72歳か、あと何年ぐらいかな、残り少なくなってきたな、何いうてんねん、まだ72歳やで、少なくとももう一回の干支を迎えて、更にその先を目指すように頑張るんや、そうやな、もうなんて言うとしたら、これから先の夢があらへんもんな、まだまだ志向で行くなら、夢も一杯持てるもんな。それではつぎの干支を元気に迎えるためには、何ができるか二つ三つ考えてみよか」…

一つ目…身体的には毎日のウォーキングを継続すること、そして目の保養、味見を兼ねた旅行をすること。

二つ目…ボケ防止には下手でも好きな川柳を心の支えとして詠み続けること。

三つ目…難しいことだが、大好きな酒を少しづつでも減らしてみるか。今まで肝臓さんありがとうございました。

こんなことを新年の抱負としました。

年女とよばれて 藤原 真佐美

ついこの間、「私も人生半世紀を生きてきたのか」と感慨にふけったばかりなのに、もう「還暦」を迎える年になりました。ありがたいことに、大した苦労もせず現在に至っています。

挑戦してみたいと思うこと、行ってみたい

所など、ヒラメキの感度は良好です。好奇心が刺激されることは多々あります。しかしながら、元来がなまけ者で飽き性の私です。「めんどくさい」が口癖で、努力と根気のいることには、つい二の足を踏んでしまいます。「忙しい」「時間がない」「暑い」「寒い」などと、やらない理由を並べ立て、ヒラメキのほとんどは、やがて記憶のかなたにお蔵入りとなってしまいます。やる気のタイミングをのがしては、どうして思い立った時にやらなかつたのかと、後悔の繰り返しです。

そんな私なので、これからも気楽に、そして喜楽に進んでいきたいと願っております。

少年期の思い出

竹本 章

私は高度経済成長のピーク期に生まれ、公害が大きな問題になっていた頃に幼少期、少年期を過ごしました。

未年に生まれ一回りした12歳の頃を思い出すと、頭に浮かぶのは光化学スモッグの注意報や警報を示す旗が校庭に上がつていた光景です。

その頃友達とよく武庫川に魚釣りに出かけましたが、水はいつも濁っていてあまり綺麗な印象は無く、神崎川や淀川などはもつてのほかというイメージでした。

あれから数十年経ち、ふらっと猪名川や武庫川の河川敷を散歩していると、水が随分綺麗になったなと感じます。昔に比べると環境対策がかなり進んだのでしょうか。

武庫川のコスモス園から西日を浴びてキラキラ光る水面を見ていると、河岸に廃材が散乱し、濁った水の時代が遠い昔のように感じます。行政や民間、色んな人々がきっと長い時間をかけて川を再び蘇らせたのでしょうね。人々の地道な努力に対して感謝するとともに、取り戻した今ある風景を大切に守っていかなければいけないなと感じます。



大阪中之島周辺・歴史と文化に触れて

水曜班 屋外研修

昨秋 11月6日(木)、水曜班の屋外研修を実施しました。会員32名がJR伊丹駅から東西線に乗り、大阪天満宮駅で下車、以下巡った順に示します。

- ① 成正(じょうしょう)寺…大塩平八郎の墓がある。
- ② 大阪天満宮
- ③ 八軒屋浜跡…中之島公園の東端に立つと対岸に見える。そこは江戸時代に淀川を往来する三十石船の発着場があり、八軒の船宿や飛脚屋があったので地名として残っている。
- ④ 中之島中央公会堂…緑の銅板の屋根



中央公会堂前で

とレンガ色
が鮮やか
地下1階
だけが見
学できる。
⑤ 府立
中之島図
書館…入館

するには荷物を預ける規則があるので外から見るだけ、耐震工事中。隣の大阪市役所で昼食後、⑥ 淀屋橋すぐ西の淀屋敷跡を訪ねた。⑦ 日銀大阪支店…見学は13時30分から1時間余り。⑧ 適塾…階段が急で危険なため、希望者だけ見学する。⑨ 愛珠幼稚園…現役最古の園舎が重要文化財であり、耐震工事中。ここは江戸時代には銅座があった場所。金座については日銀で貰った冊子『お金のあれこれ』に説明があった。⑩ 最後に少彦名神社と、隣接する「薬の道修(どしょう)町資料館」を訪ねる。薬種商124軒が長崎で輸入された漢薬を取り扱う株仲間として、享保7年に公認された経緯が書かれている資料館の機関紙を貰った。

さて今回の目玉は日銀です。他の団体も加わり、約40名が2班に分かれて2名ずつ

の銀行職員が張り付き案内して下さった。

昭和57年に建てられ新館は旧館と調和するように、屋根や窓回りには銅板を用いている。旧館は明治36年の建築、辰野金吾の設計でベルギー国立銀行がモデルという。貴賓室はシャンデリアと床以外は全て当時の材のままです。座面の布だけを張り替えた椅子に見学者全員が座って説明を聞きました。

口では表現しにくい変った構造の階段を通りました。アーチ型の金属製構造物で階段を支えるのは珍しいそうです。

資料展示室は2部屋続きで、硬貨の重さを計る器械、お金専用の運搬器具(メカ一名?ビシャモン)、貨幣の移り変わり等多くの展示物がありました。偽造防止の透かし入れ技術は、日本の手漉き和紙の技術に支えられたもので、世界一だそうです。お札は文化財!

研修を終えて、「みんなのガイドが詳しくてよかったです」「色々な建物を見ることができてよかったです」などの感想をお聞きしました。

ありがとうございました。(富永 記)



官兵衛ゆかりの地探訪

秋季研修バス旅行

朝冷えのする11月18日(火)の秋季バス旅行は、三木市・加古川市・姫路市の官兵衛ゆかりの地を訪ねました。

最初の訪問地までは、参加者45名がバスの車内で『ご当地三択クイズ』を楽しみながら、あつという間に到着です。

秀吉の平井山本陣跡・竹中半兵衛の墓

三木攻めの際、秀吉が本陣とした付け城です。美濃川と志染川の間に挟まれた平井山山頂にある主郭からは、南西に三木城を望むことができます。主郭までは急な山道を15分ほど登りつづけ、少しハードな朝の準備運動になりました。

本陣の西側の山に続くぶどう畠のまん中に、白い練り塀に囲まれて、36歳で亡くなった半兵衛の墓があります。墓はよく手入れが行き届いており、背後の樹木は墓が作られたときに植えられたものでしょうか、年月を経て大きく育っています。この大木と地元の人々の手厚い供養で、墓はこれからもずっと守られていくことでしょう。

三木城跡・金物資料館

別所長治公首塚で、ボランティアガイドさ



んの説明に耳を傾けていると「地元では毎年、当時を偲んで“うどん会?”をしています。」「ええ～っ?」と思い、よく聞いてみると“うどん会”のこと。三木合戦は『三木の干し殺し』と呼ばれる兵糧攻めで、草や根はもちろんのこと壁に塗り込まれた藁まで食したと云われており、この藁に見立てた“うどん”を食べる伝統行事が毎年行われているそうです。

金物資料館では、館長さんから三木に伝わる金物について丁寧な説明を受け、『強い郷土愛』を感じました。

三木山森林公园・志方城跡（観音寺）

昼食の後は、モミジやタカノツメの赤や黄色の葉が秋風に舞う、兵庫県立三木山森林公园を散策しました。

官兵衛の愛妻の光姫は志方城主の娘。観音寺は志方城の本丸に位置します。ちょうど寺は改修中で、大工さんたちにちょっとおじやまして「いま使っている道具は三木のものですか?」と尋ねました。「もちろん!三木のものです」とにっこり、ここでもやっぱり『郷土愛!』

大河ドラマ館・英賀神社

姫路城の南、家老屋敷跡公園内のドラマ館を足早に見学しました。外に出ると秋の日はつるべ落とし、早くも夕暮の気配です。新しく修理された姫路城は夕日に照らされながらも、なお白く輝いていました。

最後の訪問地は英賀神社。この神社は英賀城跡の一角にあり、境内には『播磨灘物語の文学碑』や『英賀城』土塁跡が残されています。官兵衛の頃は、今よりずっと海が近かったので、この地は港のある城下町としてにぎわいました。

『ご当地三択クイズ』の問題：英賀神社と猪名野神社との共通点は？ 答え（修理固成の注連柱）をしつかり確認し、これで本日の予定は無事終了。

帰途のバスの窓から外を見ると、きらきらと美しい夜景がお見送りです。車内では、恒例の会長のハーモニカ演奏に大きな拍手。「会長、今日は何歩、歩かれましたか？」万歩計を見て「そやな～… 13,800歩やね。よう歩いたね！」

盛りだくさんの旅、お疲れ様でした(*^_^*)

（古結 記）



救民の思想 大塩平八郎

<研究発表>

竹本 章

天保 8 年(1837 年)2 月 19 日、大坂天満で、江戸幕府天下泰平の眠りを覚ます砲声が鳴り響きました。



現代の教科書でも必ず教えられ、語り継がれる「大塩平八郎の乱」です。この時代、天保の大飢饉の影響により

大塩平八郎 大坂の町では多くの民衆が飢えに苦しんでいました。

大坂東町奉行所の元与力で陽明学者であった大塩平八郎は、飢饉で苦しむ民

衆を顧みず不正を働く役人と、これに結託して富をむさぼる豪商達へ天誅を成すため決起を決意します。乱の際に大塩らが配布した檄文には体制の不正腐敗を追及し、民の救済を求める思想が記されていました

亂そのものは半日で鎮圧されましたが、江戸幕府には大きな衝撃を与え、時代の大きな転換期となっています。

大塩は学者として何度も伊丹に講義に来ていました。檄文の配布を担った額田善右衛門や、大塩の妻たち一行をかくまつた紙屋幸五郎など、乱に関与した伊丹の人もいました。

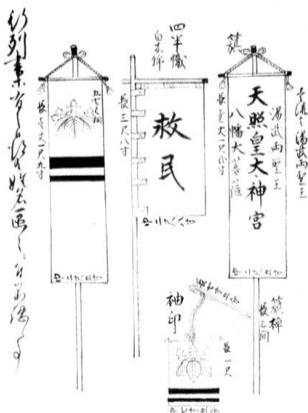
救民の旗を掲げて民衆のために立ち上がった大塩平八郎と、乱に関わった伊丹の人々、大塩から見た伊丹はどのような町だったのでしょうか。

昨年 11 月、水曜班の屋外研修として大坂天満・中之島界隈を回り、私は大塩平八郎の墓がある成正寺の説明を担当しました

境内には大塩平八郎と養子格之助の墓が並び、少し離れて「大塩の乱に殉じた人びとの碑」が建っています。大塩親子の墓よりもこの慰靈碑は数倍大きく、大塩の「民衆第一」の思想がこの墓にまで現れていると言われています。

幕府封建制度の時代、奉行所の元与力という体制側にいた大塩が、なぜ蜂起し民を救うという考えを持ち得たのでしょうか。その答えは大塩が自ら学び教えていた陽明学という中国伝来の学問の中にあるように思います。

陽明学の重要な思想の中に「致良知」「万物一体の仁」「知行合一」というものがあります。人が生まれながらにもっている良心善悪を正しく見抜く先天的・本能的な力が良知であり、それを信じて実行するという考えが「致良知」。天地万物はもともと自分と一体のものであり、他者の苦しみや痛みは、そのまま自分の痛みとなる。それが「万物



「一体の仁」。そして、知ることと行動は同一のもので、認識することは実践を伴わなければならないという考え方が「知行合一」。

これを当時の社会に当てはめて考

えると、飢饉に苦しむ民衆の苦しみは自らの苦しみであり、救済しなければならないという考えに到達しました。つまり大塩の行動哲学はこの陽明学の思想に集約されていました。

大塩は大溝藩士あての書簡の中に伊丹のことを書いていました。「近衛殿領地摂州伊丹豪富之者、并其地一同良知を信奉仕候様相成り、弟子共教授に遣し」、その結果、飢饉のなかでも考悌(こうてい)の道を敬い、心得違いの不法をするものが少なくなったと記しています。

まさにここに、大塩の学問の根本である「良知」という言葉が出てきます。大塩から見た伊丹は「人としての良心、善悪誤らない正しい知を大切にする町である」という風に見えていたのではないでしょうか。

大塩の乱はわずか半日で鎮圧されました。乱の際に大塩が作成し、額田善右衛門がばら撒いた檄文は、幕府に反感を持つ庶民の手で取り締まりをかいぐって筆写され、それが全国に渡っていきます。寺子屋では大塩の檄文が習字の手本にされたほどでした。そして大塩の思想に呼応して各地で「大塩門弟」「大塩残党」と名乗り、打ちこわしや一揆が起こります。民衆を省みず、飢饉に対して満足な対策を取らなかった江戸幕府の権威はどんどん失墜し、時代は動乱の時期、幕末へ向かっていきます。

そして大塩の乱から30年後に大政奉還

明治維新を迎えることになります。近年の研究では、1853年黒船来航より16年も前に起きた「大塩平八郎の乱」こそ明治維新への火付け役であると考えられています。

陽明学の思想を纏めた大塩の代表作となる「洗心洞箋(さつ)記」という書物があります。この書物を、大塩は門弟達とともに富士山に登り、山頂に埋めて奉納したと言われています。「洗心洞箋記」の巻末を大塩はこのような言葉で結んでいます。

「自分自身の本性を欺いて勝手に自己満足していても、いずれひとさまに見抜かれてしまう。正義と私利、誠にうそいつわりの境目をごまかしてすごしてはならない。口先だけで善を説くことなく、善を実践しなければならないのだ。」

〈参考資料〉

「洗心洞箋記 大塩平八郎の読書ノート」吉田公平
「朱子学と陽明学」島田 虔次

伊丹市史第二巻「幕藩体制の崩壊と伊丹」

新・伊丹史話「伊丹をまきこんだ大塩平八郎の乱」

伊丹博物館平成19年度秋季企画展資料「大塩平八郎の乱と伊丹」

地域研究いたみ第3号「大塩の乱と在郷町伊丹」

地域研究いたみ第37号「天保の飢饉・大塩平八郎の乱と北村」



[町の小さな文化財 第4回]

荒牧トンネル 一戦争の遺産一

天神川の下をトンネルが横断している。

昭和19年7月に大阪陸軍獸医資材支廠

への貨物専用の引き込み線として、国鉄中山駅から荒牧を経て野里に行く建設が始まった。終戦の年に完成したが残念ながら列車は一度も通ることがなかった。



線路は昭和20年10月には撤去された。しかし、線路跡も、トンネルも、今は道路として残っている。陸軍施設跡としては北野1丁目の長尾住宅の角に残るコンクリートの門柱だけである。

終戦直後、中山駅の引き込み線に天蓋のない裸の貨車が何両か放置されていた。上級生に誘われて貨車に乗りに行った。連結器の太いピンは簡単に抜けた。先頭の貨車を皆で押して少し動き出すと一斉に貨車に飛び乗る。中山駅から荒牧までは緩い下り坂に成っている。ゆっくり動き出した貨車は次第に速度を上げていく。上級生が貨車の梃子ブレーキに乗つかって速度を調節した。しかし荒牧のトンネル近くまで来ると、梃子ブレーキではスピードを落とす事が出来なかつた。“皆、飛び降りよ！”との掛け声で線路脇に飛び降りた。貨車はトンネルを過ぎたところで、止まっている何両かの貨車に追突した。ガシャーンと言う大音響と共に先に止まっていた貨車を動かして止まつた。恐ろしくもあり痛快でもつた。

このトンネルには不思議なことがあつた。トンネルには側溝があり、冬になると北側の水面からは微かに水蒸気が立ち昇つていたが、南の側溝は薄氷が張つていた。何故トンネルの両側でこの様に温度差が出るのだろうかと何時も疑問に思つてゐた。ひょとすると、トンネルの西側はカーブになつてゐるため、風の通り道で温度差が出たのか。或いは、中山駅近くで温泉が湧いて「宝の湯」が出来たが、案外関係あるのかも知れない。今も疑問が残つたままである。

(林 記)

＜本号より行基会資料を連載＞

行基会は平成20年2月から25年3月まで5年にわたり活動、その間に学習・研究した資料を編纂しました。火曜会通信で当資料を8回に分割して掲載します。

〈行基会資料 1〉

時代背景・古代国家の仏教

1 古墳時代（仏教公伝以前）

3世紀中頃から7世紀初め頃まで約350年にわたり、日本列島各地で多くの古墳が造られている。古墳は地方の首長の墳墓であり、亡き首長が神となってその地方を守護してくれると考えられ、手厚く祀られていた。前方後円墳は古代中国の「方形は人の住む空間、円は天を意味し、神の住む空間」すなわち天圓地方の思想によるものとされている。この時代には仏教は公にはされていないが、平安時代の『扶桑略記』に「繼体朝に司馬達等が入朝して、草堂を結び本尊を安置し、帰依礼拝をした。世人はこれを大唐の神であるという。」と伝えている。

2 飛鳥時代の国家仏教（仏教公伝以降）

（1）仏教伝来



聖德太子

仏教はインドから紀元前後、中国の漢に伝わり、やがて朝鮮半島を経て我が国に伝わつた。国の歴史によれば欽明朝(538年)に百濟聖明王が仏像、経論等を朝廷に献じたのがわが国の公的な仏教の始まりとしている。わが国仏教の母胎である大陸・朝鮮半島の仏教はインドのそれと異なり、普遍的な法を説くことで國の支配者の庇護によって教線を広めていった。このため布教者たちが民衆を先導することを警戒して、布教活動を抑制した。

（2）氏族仏教

仏教公伝以降、渡来系氏族と関係の深い崇仏派の蘇我氏が排仏派の物部氏・中臣氏を下し、実権を握った蘇我氏が仏教を広めていくことになる。大化の革新ま

で氏族仏教が続くことになった。蘇我氏は権威・権力の象徴として飛鳥寺を建てた。当時の最新技術で建てられた飛鳥寺は目にする者を圧倒し、巨大古墳に代わる存在であった。

天皇の外戚・蘇我氏を後ろ盾に推古女帝が即位し、摂政・聖德太子は17条憲法2条で「3法(仏・法・僧)を敬え」と規定

[ガイド豆知識 第3回]

庚申(こうしん)信仰

皆さんには稻野小学校の南東隅にお地蔵さんの祠があるのをご存じですか。その祠の中には「首切り地蔵」と共に左隣りには『庚申祭所』と刻まれた石の碑があります。この「庚申」というのは古い暦の干支(えど)のうちの庚申(かのえさる)の日をさし、60ごとに巡ってきます。



中国の伝説によればこの日に人間の体内に潜む『三尸(さんし)の虫』が、人が眠っている間に体外に抜け出して天に上り、天帝にその人の所業を報告します。すると

その内容に応じて寿命が削られるといいます。そこでこの虫が体外に出るのを防ぐため、庚申の日には眠らぬように徹夜で過ごすのです。それは平安時代からの風習で「枕草子」にも眠らないために歌を詠んだりしたことが記されています。なお三尸の虫を抑える力を持つ青面金剛(しょうめんこんごう)が祀られている碑もあります。

余談ですが、昆陽地区に庚申の日は徹夜で過ごす風習があつたらしいと聞いたので、もしや古老にこの伝説が聞けるかと、淡い思いで旧家を三・四軒回って伺ったが、結果は徒労に終わりました。(柳沢 記)

説いた。蘇我氏の強い影響下での宣言と考えられている。

(3) 大化の改新と国家仏教

大化の改新で蘇我家宗本家が滅び程なく即位した孝徳天皇自身が仏教を主導することを宣言した。孝徳天皇が援助して豪族の寺院建立を進め、僧尼を教導する十師を置いた。

大化の改新で氏族支配を否定し、中央集権政策を推し進めて行く上で普遍的な法を説く仏教への関心が高まり、国家仏教へと展開していく。特に斉明朝期

(663年)にわが国と近い関係にあった百済が白村江の戦いで唐・新羅連合に滅ぼされたことで、緊迫感が高まり、仏教への護国期待が大きくなつた。

(4) 天武天皇の仏教政策

天智天皇死後、壬申の乱に勝利した天武天皇は仏教を、国を統治する補完手段として保護・統制を強めた。具体的には律令的な僧網制、朝廷管轄の寺院数の制限、寺院に対する食封の年限、国王が經典を護持すれば護国の功徳が得られると説いた「金光明經・仁王教」の布教奨励などであった。

(5) 大宝律令と僧尼令

文武朝で大宝律令が制定され、天皇を頂点とする専制的中央集権国家の枠組みができた。僧尼令の制定時期も大宝律令の制定時期が有力視されている。僧尼令は27条からなり、僧尼が寺院外で道場を建てて教化することを禁じた。僧尼は寺院内で定住し、乞食・山居など外出に官許を得ることなど、僧尼の行動や生活について事細かく規定し、不法行為に各種の刑罰を設けた。行基の布教活動がこれにより禁圧を受けたことがよく知られている。

(6) 民衆仏教

渡来人が多数居住した河内や大和に

はその氏寺があり現在まで伝わっているものもある。葛井氏の葛（藤）井寺、船氏の野中寺、西文氏の西琳寺などがある。渡来人は仏教信仰を基に知識結といわれる集団を作り写経や造寺、仏教的実践の一環として水路開発や架橋等の社会事業に取り組んだ。知識集団は指導的な僧尼と在俗信者で構成され、財物の布施、労力の提供を通して結縁した。この時代、道昭が先駆者であり、行基が続いた。

3 奈良時代の政情と仏教

（1）奈良時代の政情の推移

奈良時代は天皇を頂点とした表向きは華やかな律令国家であった。しかし実態は公地公民を基本に租・庸・調の徵税制度により民衆は過重な負担に苦しみ、土地を捨て逃亡者が後を絶たなかつた。更に天変地異が起り疫病にも見舞われ農村の疲弊度が極度に高まつていった。そこで朝廷は農民を土地に定着させ田畠を増やし、徵税を高めるために次の施策をとつた。これらの施策は行基の活動と相通ずることになって行く。

三世一身の法 長屋王政権下の養老7年（723年）新しく水路、池を造成して開墾した者には3代にわたり開墾地の私有を認めた。既存の水路や池を利用して開墾した者には1代限り私有を認めた。一時的に開墾地が増えたが、期限が来れば没収されるため、効果は長く続かなかつた。

墾田永年私財法 聖武朝の橘諸兄政権下の天平15年（743年）墾田を永久に私有地と認めることとした。但し身分、地位により面積が定められたため、有力豪族は墾田の増大→大仏造立への寄進→昇進→墾田の増大化となり、後の荘園に連なっていくことになる。

（2）聖武朝における仏教の位置づけ

大宝律令制定以降も仏教はあくまでも国家統治の手段であったが、聖武天皇は仏教の尊厳により国造りを目指した。



聖武天皇

聖武天皇が即位してから度々地震、旱魃等の天変地異が起り疫病が流行、更には朝廷内でも長屋王の変、藤原兄弟の疫病（天然痘）死、藤原広嗣の乱など不祥事が続いた。聖武天皇はこれらに対し「朕が不徳で発生した」と宣し、「有徳」になるための支えを仏教に求めた。天平13年（741年）には国分寺・国分尼寺建立の詔を、天平15年（743年）には東大寺盧舎那仏像（大仏）の建立の詔を出している。聖武天皇は天平12年（740年）河内国の知識寺で大きな盧舎那仏像を拝し感銘を受け、知識で以て大仏造立を決意した。即ち聖武天皇は「広く法界に及ぼして、朕の知識と為し、遂に同じく利益を蒙りて、菩提を至さしむ。…人有りて、一枝の草一把の土を持ちて、像を助けて造らんと情（こころ）に願うものあれば、恣（ほしいまま）にゆるせ」と決して命令の形でなく、自ら衆生を率いて菩薩行を実践し、これに共感するもので大仏を造ることを人民に宣言したのである。

聖武天皇は行基の活動に着目し、行基とその知識集団をそのまま取り込み、聖武天皇自ら知識の願主となり、行基を大仏造立の勧進に起用し、全国規模の知識結で大仏を造立し、盧舎那仏の蓮華藏世界・仏教国土を実現しようとした。これまで民衆と共に活動してきた行基がこれに応じ、行基は大僧正に昇りつめたのである。

(3) 聖武朝における度重なる遷都と政権

聖武天皇は災いから逃れようとたびたび遷都を行った。まず平城京を捨て、山城の恭仁京に遷都し、次いで都を難波・紫香楽に移したが官民の反発が強く最終的には平城京に復帰した。また、藤原氏4兄弟が相次いで亡くなつたため朝廷は橘諸兄（光明皇后は異父妹にあたる）が執り仕切っていた。橘諸兄が山城泉橋院にて聖武天皇と行基を引き合わせたことはよく知られている。聖武天皇が仏教に篤く帰依し、仏教政策を推し進め、行基を重用するに至つたのは同じ年の光明皇后の進言があつたとされている。



活動記録（11月～1月）

定例会 •11/11(火) •12/9(火) •1/20(火)あと新年会
案内ガイド •11/6(木)Aコース(大阪府高齢者大学 茨木市) •11/7(金)A・Bコース(元気なわて四條畷市) •Aコース(東加古川公民館老人大学 加古川市) •11/13(木)Aコース(大阪区民カレッジ南部 藤井寺市) •11/15(土)Bコース(阪神シニアカレッジ 伊丹市) •A・Bコース(関西江南会 池田市) •11/20(木)Aコース(わくわく会 高槻市) •Aコース(お茶を楽しむはごろも会 宝塚市) •11/23(日)Aコース(関西詩吟文化協会春洲会 大阪) •Aコース(北摂児童文学会 能勢町) •11/27(木)Aコース(三島子ども文化ステーション 高槻市) •11/29(土)Fコース(兵庫県保健医協会 神戸市) •11/30(日)Aコース(姫路ボランティアの会 明石市) •12/3(水)Aコース(枚方市自治会福祉委員会 枚方市) •Aコース(てくてくクラブ 丹波市) •12/4(木)•12/5

編集後期

2月号の編集が佳境に入る1月末、税務署から確定申告の書類が届きます。これがここ何年か小生の歳時記になっています。寒さは今がピーク、インフルエンザが流行っています。皆様お身体大切にどうぞご自愛下さい。(T・M)

(金) Aコース(クラブツーリズム 名古屋市) •12/6(土)A・Bコース(西野山歩会 伊丹市) •Aコース(大阪経済大学同窓会 伊丹市) •12/9(火)Aコース(兵庫県高等学校教育研究会 伊丹市) •12/10(水)Aコース(年輪20の会 和泉市) •12/13(土)ABコース(万歳会 宝塚市) •12/20(土)Aコース(関学関根孝道ゼミ 伊丹市)

屋外研修 •11/6(木)水曜班 大阪中之島

どんぐり座公演 •11/22(土)有岡 •1/23(金)桜台小 •1/30(金)昆陽里小

歴史ロマン体験学習支援 •11/8(土)兜をつくろう •12/6(土)ペン立てをつくろう

•1/24(土)管玉でブレスレットをつくろう

有岡城跡の清掃 •11/29(火)一斉清掃

•12/23(火) •1/27(火)

今後の予定（2月～4月）

定例会 •2/10(火) •3/10(火) •4/14(火)

案内ガイド •1/28(水)郷町館(シニア自然大学枚方市) •2/27(金)Aコース(瓦木公民館推進委員会 西宮市) •3/1(日)Aコース(阪急・阪神) •4/5(日)Bコース(阪急・阪神)

屋外研修 •3/27(金)金曜班 大阪 伝法方面

どんぐり座公演 •2/18(水)鈴原小 •3/4(水)鈴原小 •3/6(金)稻野小

歴史ロマン体験学習支援 •2/21(土)ハニワをつくろう •3/7(土)勾玉をつくろう

有岡城跡の清掃

•2/24(火) •3/24(火) •4/28(火) 9:00～

文化財ボランティア養成講座

•1/27(火)オリエンテーション •2/3(火)地形と城づくり •2/10(火)田能遺跡 •2/17(火)口酒井遺跡からみる縄文から弥生へ •2/24(火)伊丹の歴史 •3/3(火)史跡めぐり準備 •3/17(火)〃下見 •3/21(土祝)市民史跡めぐりガイド神津方面